

令和3年度

指導の重点・主な施策

とだっこ やり抜く力で 未来に夢を



戸田市教育委員会



「指導の重点・主な施策」について

新学習指導要領が小学校に続き、今年度から中学校においても全面実施となった。これまでも育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、これからの時代に求められる子供たちが身に付けるべき資質・能力が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で再整理されている。こうした資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善をさらに充実させていくことが重要である。

戸田市教育委員会では、「戸田市の教育振興に関する大綱」（令和3年4月策定）及び「第4次戸田市教育振興計画」（令和3～7年度）を基盤に、国や県の動向や各学校の実態を踏まえ、戸田市の子供たちがこれからの変化の激しい時代を主体的に生き抜き、よりよい豊かな未来の創り手となれるよう、各施策を実施する。

この「指導の重点・主な施策」は、各学校で行う教育活動の指針を編集したものであり、手の届くところに置かれ、授業づくりの一助となるよう作成した。各学校においては、自校の実態に即して本冊子を十分に活用し、令和3年度の指導の重点を明確にし、学校教育の充実を図りたい。

第4次戸田市教育振興計画

- ★基本理念：生き生きと 共に育む 教育のまち 戸田
- ★キャッチフレーズ：とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を
- ★方針1：子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現
- ★方針2：多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような
誰一人取り残さない学びの保障
- ★方針3：地域・家庭・産官学民などの多様な主体による学びの提供
- ★方針4：個別最適な学びの実現に向けたE B P Mの推進



←計画本文、紹介動画
はこちら

令和3年度 戸田市立小・中学校における標準授業時数について

<小学校>

	各 教 科									特別の教科である 道徳	外国語 (英語) 活動	外国語 (英語)	総合的 な学習 の時間	特別 活動	総授業 時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306	*	136	*	102	68	68	*	102	34	*	*	*	34	850
第2学年	315	*	175	*	105	70	70	*	105	35	*	*	*	35	910
第3学年	245	70	175	90	*	60	60	*	105	35	70	*	35	35	980
第4学年	245	90	175	105	*	60	60	*	105	35	70	*	35	35	1015
第5学年	175	100	175	105	*	50	50	60	90	35	*	70	70	35	1015
第6学年	175	105	175	105	*	50	50	55	90	35	*	70	70	35	1015

<中学校>

	各 教 科									特別の教科である 道徳	総合的 な学習 の時間	特別 活動	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語 (英語)				
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

※小学校中学年における外国語（英語）活動の実施について

本市全小学校は、中学年の「総合的な学習の時間」を35時間削減し、外国語（英語）活動を35時間実施することが可能となっている。これは、学習指導要領等の教育課程の基準によらない特別の教育課程の編成・実施を可能とする特例校（教育課程特例校）（令和2年1月22日文科科学大臣承認）となっていることに基づくものである（期間は、次期教育課程変更日まで）。

※小学校新学習指導要領における外国語（英語）活動及び外国語（英語）科への短時間学習の導入について

本市の中学年の外国語（英語）活動については、平成15年から35時間実施しているが、さらなる英語教育の充実を図るために35時間増とし、合計70時間とする。中学年、高学年の35時間分の実施方法については、15分間の短時間学習を3回行うことにより1単位時間（45分間）に換算することとする。

なお、低学年については、余剰時間や短時間学習も含め20時間程度とする。

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか。
- 本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
- 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）

2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。（※1）
- 自分の考えを表現することができるように、（主につまずいている児童生徒への）支援方法を準備し、実行することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の実現につながっていたか。

3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できたか。
- 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具（タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等）を工夫し用いていたか。
- 目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化（板書、ICT等を使って示すこと）できたか。（※2）

4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【主に深い学びの視点】

- 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 児童生徒に「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。

5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する（キャッチ&レスポンスする）ことができたか。
- 目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
- 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。（※3）

※1～3は、令和元年度達成率が低かった事項である。※1と※3は授業の根幹であるため、見通しと振り返りの時間を必ず設定することが不可欠である。※2は児童生徒が考えた、話した結果をアウトプットし、考えを再構築することで深い学びにつなげる手立てである。

R01達成率	※1 小88%、中67%	※2 小54%、中34%	※3 小63%、中44%
R02達成率	※1 小69%、中66%	※2 小57%、中56%	※3 小45%、中52%
R03目標値	※1 小中ともに90%	※2 小中ともに60%	※3 小中ともに70%

R01、R02達成率の数値は、学校訪問で先生が自分の授業を評価したものである。

指導用ルーブリックに基づく授業づくりのポイントについて ～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

昨年度も、**埼玉県学力・学習状況調査**の結果及び**指導用ルーブリック**を活用して、児童生徒の学力を特に伸ばしている教師（小学校17名、中学校11名）へのインタビューを行った。質問事項としては、主に『①子供たちの学力を伸ばすために意識していることは何か』と『②支援を必要としている児童生徒への対応について』である。以下は、インタビューの内容に基づく、**効果的な指導方法（グッドプラクティス）**である。

子供の学力を伸ばす 3箇条+α

主にルーブリック
1、2に関わって

1 子供にとって分かりやすい指示出しや発問

〈分かりやすい指示出し・発問〉

- ①はっきりと**1度**で言う。
(日頃から指示等を繰り返していると1回で話を聞かなくなる)
- ②聞き取りやすい**速さ**で、抑揚をつけて話す。
(特に大事なところはゆっくり話す など)
- ③子供に**正対**し、子供を**見て**話す。
- ④「今から指示をします」など、**前置き**して指示を出す。
- ⑤口頭のみではなく、板書やICTを活用して**指示内容を残す**。
(指示の見える化)



主にルーブリック
1～3に関わって

2 教師が子供の意見を聞き、子供に任せる、学習者を尊重する授業づくり

こんなことはありませんか？

- ・全体の前で子供に説明させると時間がかかり、予定通りに授業が進まない。
- ・教師が説明する方が授業がスムーズに進む。
- ・子供一人一人の取組を見取る時間がない。
- ・子供に活動を任せると授業が成り立たない。



このように改善してみましょう！

(1) 子供が説明できる場面をつくる。



例：学習した内容を振り返ったり、新出用語の意味を指導したりする場面

(2) 子供に活動を任せる=放任するではない。 活動を任せるときは前もって以下を子供に伝えておく。

- ① **課題** (何をやるべきか、ゴールを明示するなど見通しを示す)
- ② **時間** (いつまでに行うか、何分間で行うか)
- ③ ゴールに迫るための**手立て**や**条件**、**方法**

(3) 子供の活動状況を把握して、励ましたり、認めたりする。

教師が肯定的に接することで、子供は自己肯定感を高め、更に意欲的に授業に参加するようになる。



【留意点】

次のような場合は、子供の活動を止め、改めて全体指導することも必要である。

例：話し合いがずれてきたとき
目的から意図する学び合いになっていないとき

3 「引き出す」「つなげる」「深める」をキーワードとした授業づくり

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業にするためには、教師が必要以上に話をせず、子供たちから考えや興味や関心を「引き出す」、子供の意見や考えを他の子供に「つなげる」、一人一人の子供の意見や考えを「深める」ことが重要である。

① 子供の意見や考えを「引き出す」

【「引き出す」ための教師の働きかけ例】

- ・ 子供の意見や考え方に対して **肯定的な接し方**（うなずき、繰り返し）を心掛ける。このことにより、子供が安心して発言する環境づくりにつながっていく。
- ・ 子供の **つぶやき** を聞き逃さないようにする。

引き出す



② 子供の意見や考えを他の子供に「つなげる」

【「つなげる」ための『教師の問い』例】

「〇〇さんがどのように考えたか、わかりますか」「〇〇さんの考えを別の表現で言えますか」「〇〇さんの考えでいいところはどこだと思いますか」「〇〇さんがこのように考えた理由がわかりますか」など、子供の意見や考えを教師が他の子供につなげることで、**子供同士の深い学びを生むきっかけづくり**をする。

つなげる



③ 一人一人の子供の意見や考えを「深める」

【「深める」ための教師の働きかけ例】

「振り返り」の場面で「大切だと思ったこと」「これから使ってみてみたいと思った考え方」など、**振り返る視点**を子供に示す。

深める



+α (その他)

① メリハリのある授業づくり

- ・ 説明や発問の後に「**間**」を入れて考える時間を確保する。「**間**」を入れることで、ほどよい緊張感を生み出すことができる。
- ・ 子供がつまづいた場合、1時間の授業が充実感を感じられず終わってしまうことがある。1時間の授業で活動の種類（聞く、話す、書く、読むなど）を変えることが必要である。「**どの子供でも1時間の授業のどこかで主体的に活動できる内容を入れる**」ことが大切である。

×悪い例

- ・ 1時間の授業でずっと教師が話をする。
- ・ 1時間の授業でずっと問題を解き続ける。



○改善例

- ・ 子供が考えてペアやグループで意見交換する機会を設定する。
- ・ 区切りをつけて丸付けの時間や友達との教え合いの時間を設定する。

② 子供が安心して学習できる環境づくり

授業中、間違えて答えた子供に対して・・・



教師が答えた子供を叱る

↓
子供は「間違えることは恥ずかしいこと、いけないこと」として認識する。

- ・ 子供が頑張って挑戦したことを認める。
- ・ 嘲笑する他の子供を注意する。

↓
子供は「**教室は安心して挑戦できる場**」として認識する。



戸田型PBL (Project-Based Learning) の考え方 3

戸田型PBLとは？

そもそもProjectって何？

**正解の無い未知の課題を
実際に解決していくこと。**

※プロジェクトの語源は、未知の状況 (pro) に、自分を投げ入れる (ject) こと。

Project



課題

解決

Based Learning



学習

戸田型PBL (課題解決型学習) の定義

具体的な誰かの要望や自身の願望にもとづき、何をしていくか (課題) を決め、期限内にその目標の達成や理想の実現 (解決) を目指す活動を通じて、「未来を切り拓く力」を身に付ける社会に開かれた探究的な学び (学習)



戸田型PBL (課題解決型学習) にするための要件

単元設計の際に、下記6つの要件が考えられているかを確認すること。

下記「▲」の段階から、「◎」のように一歩進めることが戸田型PBLにおいて大切

- 「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である
▲水害を調べて発表しよう ⇒ ◎必要な防災グッズを親に提案し、家族を守ろう！
- 「あなたなら何をやるか？」という実行方法を問う課題である
▲食品ロスとは何かを考えよう ⇒ ◎食品ロス防止のために私達に何が出来るだろうか？
- 解決 (目標の達成、理想の実現) をしたかの基準が明確である
▲漠然とゴミを減らしたらゴール ⇒ ◎1人1日100gの家庭ゴミを減らしたらゴール
- 解決したかどうかを検証し、次につなげる活動の時間がある
▲最終結果をまとめて発表した ⇒ ◎未解決理由を探り、改善策を考え (実行) た
- 振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す時間がある
▲チェックシートに○×をつける ⇒ ◎何を学び、どう活かすか等を子供自身が言語化する
- 下図のようなプロセスを繰り返し、学びを段階的に発展させている
▲プロセスを繰り返している ⇒ ◎発展の具体例は、『戸田型PBLの考え方2』を参照

戸田型PBLの発展イメージ

生活科

低学年におけるPBLは生活科そのものである。低学年においては、課題=思いや願いと捉え、思いや願いの実現に向けて活動していくことが大切である。



他者

自分

学校
地域

中学年以降
の学習へ

探究していく
対象が広がる

実生活・実社会で
生きて働く力
(未来を切り拓く力)

社会
世界

検証・
振り返り

課題
の設定

情報の
収集

まとめ・
表現

整理・
分析



総合的な学習の時間

中学年以降の総合的な学習の時間においては、単元全体を探究的な学習のプロセスを基に構成し、自らの考えや課題を新たに更新することができるよう

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

の探究の過程を「⑤検証・振り返り」まで含めて繰り返し、学びを段階的に発展させることが大切である。



発展の具体例は、『戸田型PBLの考え方2』を参照

振り返り

思いや
願い

表現

体験

感じる
考える

リーディングスキルテストの視点に基づく授業改善3 ～研究校の実践に基づいた授業メソッド～

汎用的な基礎的読解力を測定するリーディングスキルテスト（RST）は、人間の読解プロセスである6つの視点（①係り受け解析②照応解決③同義文判定④推論⑤イメージ同定⑥具体例同定）から作成されている。市内のRS研究校では、この6つの視点を取り入れた授業改善に取り組んでいる。

導入 ～本時の問題（課題）を正しくつかめるようにするために～

- 教師が提示した問題文（課題）を正しく読んでいるか確かめる。（①～⑥の視点全てに関わる）
- 問題文や目標等を子供たちに視写させる際は、教師が何を書くのかを口頭で伝えてから板書し、教師と共に書き終える。（共書きをする）（①～⑥の視点全てに関わる）
- 問題（課題）から授業で何を学習すればよいのかを子供たちに問う。（⑥具体例同定）

指導のPoint

- 「この言葉の意味はわかりますか（どんな意味でしょうか）」と問う。
特に教科内容以外の**一般的な言葉**にも留意する。
【令和元年度 戸田市教育研究集録p 4-5 参照】
- 「今日の授業では、どんなことを学習するとよいでしょうか」と問う。
問題（課題）を正しく解釈できるようにするとともに、本時の**ゴールイメージ**の共有へつなげる。



展開 ～子供たちの理解を深めるために～

- 文章に書かれていない主語や述語を補う。（主語や述語を問う場合もある）（①係り受け解析）
- 指示代名詞（それ、これなど）が示す言葉を明確にする。（②照応解決）
- 根拠に基づき考えを発表したり、グラフや表等から事実を読み解いたりする活動を行う。（④推論）
- 文章で書かれていることを絵や図等で表現する活動を取り入れる。（⑤イメージ同定）
- 理解が曖昧な言葉は、教科書や辞書等を使って調べるようにする。（③同義文判定・⑥具体例同定）

指導のPoint

- 教師が教科書をよく読み、事前に子供たちが読みつまずきそうな所や定義文（例：～とは…である）等を把握しておく。
- 図やグラフ等を必要に応じて関連付けながら学習できるよう事前に準備しておく。（具体の世界と抽象の世界とをつなげることが大切）



終末 ～授業を振り返ることができるようにするために～

- 今日学んだことから「わかったこと」「わからないこと」「次回考えたいこと」「よかった友達の考え」などについて、子供たちが振り返る場面をつくる。（①～⑥全てに関わる）
- 新しく学んだ用語を使って、文章を書く場面をつくる。（⑥具体例同定）

指導のPoint

- ただ漠然と「今日の学習を振り返りましょう」と指示せず、教師が視点を示してから振り返らせる。また、子供たちが板書やタブレット等をもとに振り返ることができるよう、学習のあしあとを残していく。



過去の
関連資料等



R01
RSTの視点
に基づく
授業改善2



H31
RSTの視点
に基づく
授業改善1

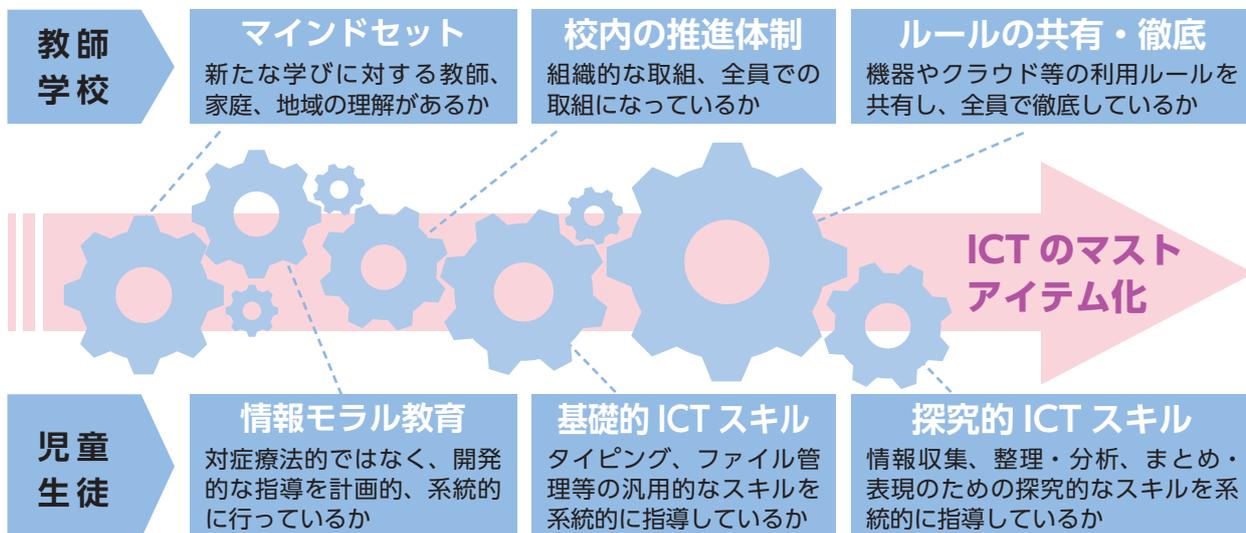


教育のための
科学研究所
HP

一人一台PC活用推進に向けて～「令和の学び」を加速化～

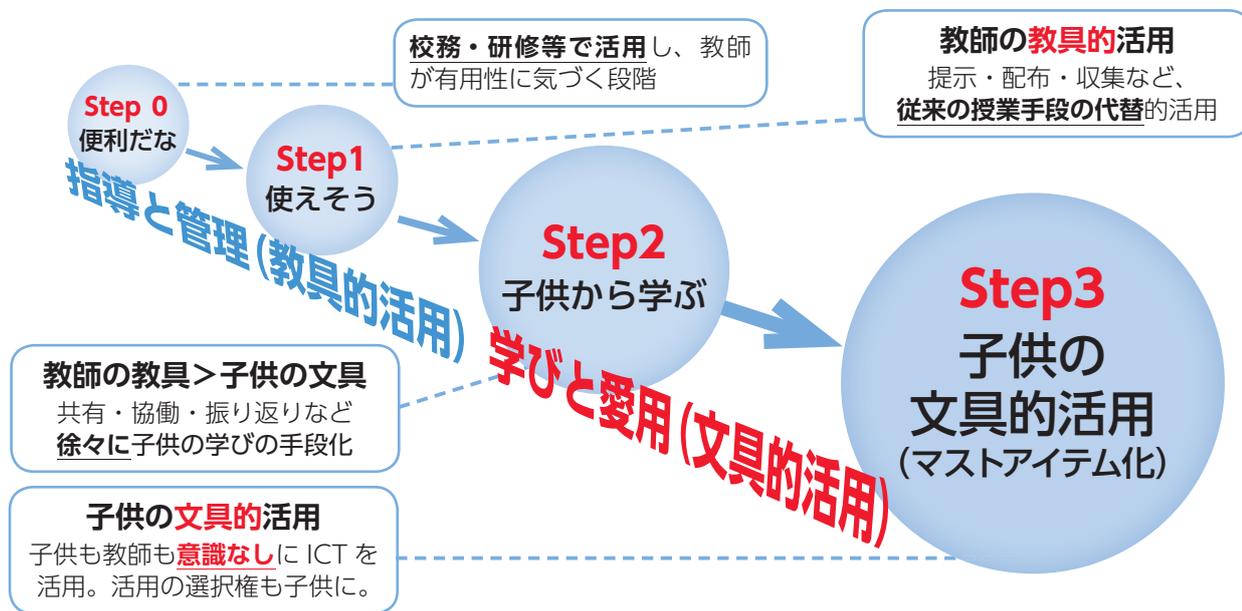
① ICT活用推進の視点

ICTのマストアイテム化の実現のためには、学校における組織的な取組と児童生徒への系統的な指導が必要である。以下の視点を参考に各学校の課題を整理し、解決に向けて取組を行う。



② ICT活用のステップ「教師の教具」から「子供の文具」へ

①を踏まえ、教師視点から児童生徒のICT活用状況を以下のように整理した。Step 3の文具的活用を目指し、ICT活用の主導権を児童生徒へ移していく学びづくりを工夫する。



Step2 や Step3 へ向かうためのポイント

- ▶ 児童生徒自身が活用の段取りを決め、試行錯誤しながら、さらには児童生徒同士で学び合う活動を取り入れる。
- ▶ 学習をインプット中心から、発信・表現によるアウトプット中心の学びに転換する。
- ▶ 活用のルールを見直す。(ルールが厳しすぎると活用が停滞することもある。)

課題解決のヒント

文部科学省や戸田市プログラミング・ICT教育研究推進委員会等が作成した資料等を参考に、各学校の実態把握や課題に応じた取組を行う。

ICT活用推進ポータルサイト



【主なリンク】

- ・各広域自治体作成ガイドブック等 (実践事例付き)
- ・ICT活用・情報モラル教育教材
- ・過去の「戸田市 指導の重点・主な施策」ICT活用に係るページ
- ・ICTリテラシー系統表 (戸田市)
- ・G suite、ロイロノート、ミライシード等のマニュアル動画資料
- ・学校情報化認定チェックリスト (JAET 日本教育工学協会)
- ・その他資料 (今後、随時更新)

③ ICTの特性を生かした授業づくり

ICTには紙等とは異なる特性がある。例えば以下のような特性を踏まえ、ICTをこれまでの授業と融合させ、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。

ICTの特性の例

共同で編集できる



資料を共同で作成したり、操作をしながら分析したりする。

即時性がある



「すぐに」調べる、「すぐに」集計されるなど、即時性がある。

理解を深めるコンテンツがある



視覚や聴覚に訴えるコンテンツが豊富であり、理解を深めやすい。

多様な表現ができる



アプリ等を活用することで、プレゼンテーションのほか、動画、音楽、プログラミングなど様々な表現方法で学びをアウトプットする。

記録が簡単にできる



写真や動画、音声入力等を使って記録をとる。音読やスピーキング、歌唱、運動のモニターとしても活用できる。

個に応じた学習がしやすい



自分に適したペースで学んだり、興味・関心に応じた学習を進めたり、ふりかえったりしやすい。また、学習履歴などの蓄積もできる。

考え等を共有しやすい



教師の共有機能のほか、児童生徒間でファイルのやりとりをすることなど、思考の共有ができる。

やり直しがしやすい



修正がしやすいというデジタルの特性を生かして、文章を推敲したり、考えを整理・分析したりする。

時間と空間の制約を受けない

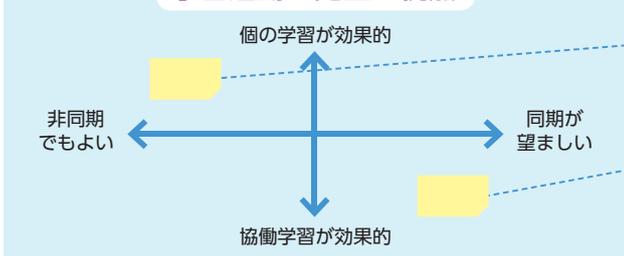


オンラインを活用すると、異なる時間や場所で学習を進めることが可能になる。

④ ハイブリッド学習の推進

対面授業にICT・オンラインを適時適切に組み合わせるハイブリッド学習を推進することで、主体的・対話的で深い学びや、学習活動の重点化、カリキュラム・マネジメントの実現につなげることを目指す。ハイブリッド学習を考えるにあたっては、下の例等を参考にICTの活用を【同期・非同期】【個・協働】の軸から捉え直し、学びの本質を捉えて学習活動を再編することが必要である。

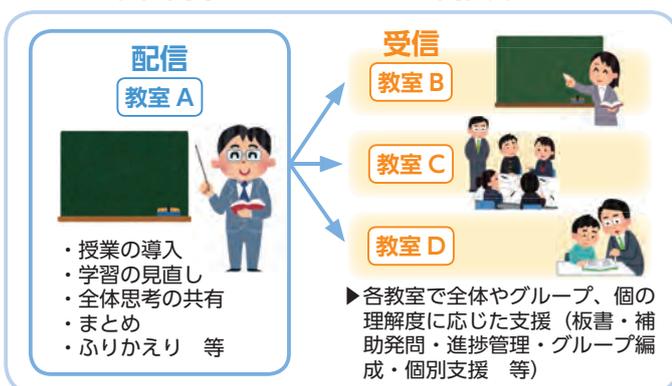
学習活動を見直す視点



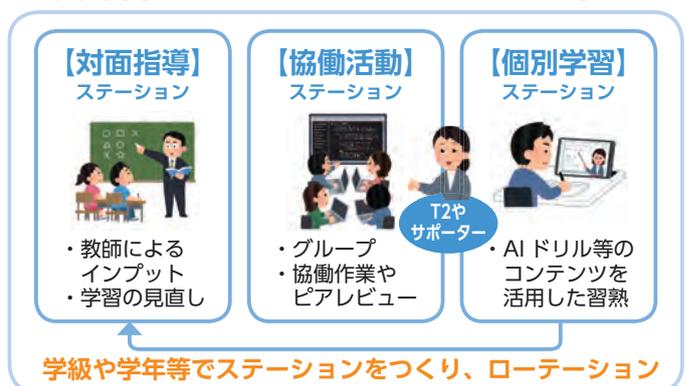
(例)

- ・リコーダーの技能テストでは、子供たちの練習成果をしっかり見取りたい→動画で演奏の様子を提出させることで、非同期・個でも可能
- ・学習の動機付けや課題設定の場面は、多様な意見を踏まえて学習を進めたい→同期・協働が望ましい

取組例① サテライト・合同授業



取組例② ブレンディッド・ラーニングの手法



学校の新しい生活様式における「考え、議論する道徳」

感染症予防下での話し合いの充実

ICTの活用

- ・学習支援ソフトによる思考の可視化（ロイロノートやミライシードの活用）
- ・オンライン会議ツール（Zoomやmeet等）を活用した話し合い

→レコーディング機能で話し合いの様子を保存し、振り返りや評価に活用

- ・共同編集機能（Jamboard 等）を活用した話し合い
- ・デジタル教材の活用
- ・拡大機能や音声機能による支援
- ・スライドや動画を活用し、教材を視覚的に理解
- ・アンケート機能を活用し、共感した点や考えたい点を表示及び集約

意思表示の工夫

- ・ハンドサインやカードの活用
- ・心情グラフ、心情メーター



具体例の紹介

●アイデア1 ロイロノートやミライシードによる話し合い



「～する」と「～しない（できない）」でカードの色を指定し、理由を書く。

～する理由

～しない理由

同じ「～する」「～しない」であっても書いてある理由に着目することで、道徳的価値について考えを深める。

●アイデア2 Zoomやmeetを活用した交流の充実

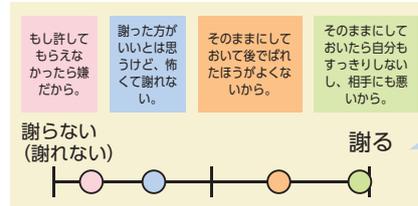


各グループで話し合ったことをオンライン会議ツールを使用して他のグループと交流する。

【発展活用例】

- ①話し合いの様子を録画して全体で共有（話し合いの再現）
- ②他クラスや他学年との交流

●アイデア3 Jamboardを活用した話し合い



- ①あらかじめWordやペイントで心情メーターを作成する。
- ②作成したメーターを挿入する。
- ③各グループでメーターと付箋を使って考えを表す。

平成30年度戸田市指導の重点・主な施策「考え、議論する道徳」への質的転換



コロナ禍に関連した内容項目の授業の充実

A 主として自分自身に関すること

【小】希望と勇気、努力と強い意志 【中】希望と勇気、克己と強い意志

B 主として人との関わりに関すること

【小】【中】友情、信頼

C 主として集団や社会との関わりに関すること

【小】【中】公正、公平、社会正義 家族愛、家庭生活の充実
よりよい学校生活、集団生活の充実

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

【小】生命の尊さ 【中】よりよく生きる喜び



国際的な調査からみるエビデンスに基づいた授業改善の視点

戸田市が協力したOECDが進める国際調査であるGlobal Teaching Insight（以下、GTI）の結果が公表された。調査における授業分析の視点や分析結果における戸田市の課題を紹介する。

指導の質を高めるための

GTIの特徴

教師の指導実践に関する調査で、以下に示す6領域で授業動画を分析し、領域別に授業の構成要素や指標を定量化。（対象教科は中3数学、調査は2018年度）
※GTIは調査当時、TALIS Video Study という名称であったが、現在はGTIに変更。

調査の概要や全体的な調査結果の説明については、こちら（国立教育政策研究所HP）



指導実践の6つの領域	GTIからみる指導のポイント
授業運営	○教室全体を見渡し、様々な児童生徒に発言を求め、進捗具合を把握する。
社会的・情緒的支援	○児童生徒が間違ったり悩んだりしている場面で、粘り強く取り組めるようフォローする。
対話（談話）	○「なぜ～か」や「似ているところは～」といった、理由や関連性など思考を促す発問をする。 ○考え（アイディア）や手続きがなぜそうであるか、詳細な特徴に焦点を当てて理由を示す。 ○授業中に、児童生徒主体のやり取りの機会をつくる。
教科内容の質	○考えや表現方法（図やグラフなど）を関連付ける。また、そのつながりを児童生徒に明確に示す。
生徒の認知的取組	○考えや手続きについて、なぜそうなるか理由を分析させたり、特定の基準に沿って評価させたりといった認知的な活動に取り組む機会を増やす。 ○問題等を解くために児童生徒から複数の考えを引き出す。
生徒の理解に対する評価と対応	○児童生徒の考えに対する教科内容に沿ったフィードバックを増やす。 ○発問に対する児童生徒の様々な考えを引き出し、その考えに対して理解を促す応答をする。

学習の過程を褒める機会を増やす

児童生徒が間違ったときに肯定的なコメントをする

戸田市の課題

推論の手法を複数提示して選ばせる

解答方法の手続きを二つ以上提示する

社会的・情緒的支援のスコアが低い

間違いを恐れずに自発的に授業に関わりやすい雰囲気をつくる

児童生徒の複数の考えを引き出すスコアが低い

児童生徒の思考の自由度を高める

ポジティブな行動支援（PBS）とは？ ～望ましい行動を増やすアプローチ方法について～

○ポジティブな行動支援（Positive Behavior Support）とは？

・・・児童生徒の望ましい行動を育てる支援方法です！

PBSの考え方のポイント

- ・何か問題が起きた後に支援するのではなく、予防的な支援であること。
- ・できていないことに着目するのではなく、できていることに着目すること。
- ・望ましくない行動を「罰則や叱責」で減らすのではなく、望ましい行動を「称賛や承認」で増やし、結果的に望ましくない行動を減らすこと。

PBSの考え方の前提に、児童生徒の行動の捉え方があります

「気になる行動」を3つの場面に分割した上で、
行動の前後にアプローチし、「望ましい行動」を増やすための工夫をしましょう



行動の前の工夫

- ①望ましい行動を起こしやすくなるような、**環境を整える工夫**
※工夫の仕方はページ下部の「学習指導要領に記載されている配慮事項について」も御参照ください。
- ②何をしたら良いかがわかるような**指示の工夫**
(例) 具体的・端的な指示、わかりやすい言い方

行動の後の工夫

- ①望ましい行動に近づいたときは…
具体的・即時的に褒める、承認する
- ②望ましくない行動のときは…
怒る・叱るなどの**過剰な反応をしない**
代わりに、望ましい行動に近づいた際に褒める

学習指導要領に記載されている配慮事項について

学習指導要領 各教科解説第4章内「障害のある児童生徒への指導」のポイント

- ・「通常の学級においても、発達障害を含む障害のある児童生徒が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう…」と明記されている。
- ・**～な場合【困難の状態】**・**～するために【配慮の意図】**・**～の配慮をする【手立て】**のように、配慮事項が体系立てて記載されている。

例①

声を出して発表することに困難がある場合や、人前で話すことへの不安を抱いている場合には、**紙やホワイトボードに書いたものを提示したり、ICT機器を活用して発表したりするなど**、多様な表現方法が選択できるように工夫し、**自分の考えを表すことに対する自信がもてるような配慮**をする。
(小学校学習指導要領解説 国語P.160)

例②

文章を読み取り、数量の関係を文字式を用いて表すことが難しい場合、**生徒が数量の関係をイメージできるように、生徒の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げ、解決に必要な情報に注目できるように印を付けさせたり、場면을図式化したりすること**などの工夫を行う。
(中学校学習指導要領解説 数学P.165)

学校全体で取り組むポジティブな行動支援 ～実践とよくある質問～

💡 自身のクラスや、児童生徒を想定して考えてみましょう

STEP
1

増やしたい、望ましい行動は何ですか？

望ましい行動を具体的に設定し、目標を決定しましょう。
(例) △ちゃんと話を聞く ○話している人の方を向いて話を聞く

STEP
2

望ましい行動を増やすために、どのような支援計画を作成しますか？

望ましい行動を増やすために、事前にどのような工夫ができるか、望ましい行動が起きたとき、クラスや児童生徒に対してどんな声掛けをするか、計画を立てましょう。
(例) 望ましい話の聞き方を可視化して掲示する
できている児童生徒に対し「先生と目があっていいね」と声をかける

STEP
3

計画を実行し、行動の記録をとりましょう。

(例) 朝の会の時間に教員の方を向いて話を聞いている人数をカウントする、帰りの時間に児童生徒が自己申告した人数をカウントする

STEP
4

記録をもとに計画を振り返り、成果が出たら児童生徒へのフィードバックと次の目標設定を、成果が出ない場合は計画の修正を行いましょう。

(例) 成果が出た場合…成果を児童生徒に発表し、次の望ましい行動を目標設定する
成果が出ない場合…行動の前を行動の後の工夫を振り返り、計画を修正する
修正した計画で再度STEP 3へ

よくある質問

Q.望ましい行動ではないときはどうする？

A.叱って行動を減らそうとするのではなく、**反応しないようにします。**

例えばページ上部の例の場合、「話している人の方を向かない・話を聞いていない」行動の時は、「話を聞きなさい」と叱るのではなく、望ましい行動ができている児童に着目して、具体的・即時的に褒めることが大切です。ただし、児童生徒の安全に関わることなど、すぐにその行動を止めなければいけないときは例外です。

Q.褒めるだけで指導はしない？

A.もちろん指導もします。「ただ褒めるだけ」ではありません。

PBSでは、「望ましい行動を、ポジティブな方法で育てること」を大切にしています。ただ甘やかす、ということではありません。望ましい行動とは何かがわかるよう、的確に指示を出したり、適切な行動を明確に示したりすることは必要です。

参考資料



令和2年度指導の重点・主な施策
「気になる行動へのアプローチ」



学習指導要領
配慮事項一覧 (小学校)



学習指導要領
配慮事項一覧 (中学校)

PBSを導入することで、
教師も児童生徒も笑顔でいる
学級づくりが期待できます

